

2025年9月1日

意見陳述書

尾道市監査委員 殿

請求者 福島 光宏

私は昨年5月にもここで意見陳述を行いました。昨年は設計予算が可決されても新校舎建設工事がおこなわれるかどうか確実ではないと、門前払いされましたが、監査請求の趣旨は変わっていませんので、改めて私の思いを述べたいと思います。

尾道で創業200年を超える企業の尾道商人の端くれとして、尾道市に対して危機感を抱いています。この危機感こそが監査請求の原動力です。

弊社の従業員構成で尾道在住者は現在43%程度で後は殆ど福山から来ています。

また尾道在住者でも結婚すると100%福山に新居を構えます。どうしてかと尋ねたら、子育て支援など福山の方が手厚いと言う回答です。永続的に町に住んでもらえる為には①働く場所②医療福祉③教育の要素が必要ですが、尾道市はこれまでハコモノの建築や観光ばかりに資金を投入し、人が住み続けるための支援にお金を投じてこなかった結果です。

前回は 125 名の委任状を頂き監査請求を行いました、この度は 1800 名近くの方から委任状を得ました。多くの方は、まさか行政がこんな馬鹿げた建築を進めている…知らなかった。知っていたけどどうしようもないと諦めていたら、この活動を知ったという方々です。中には 1 人で 100 名近くの委任状を集めてくれた方もいます。

行政の方、政治家の方は、この流れを決して軽んじてはいけません。市民はみんな怒っているのです。

監査請求書の補正書の中でも触れましたが、市教委は、2011 年度にとりまとめた小中学校再編計画を、少子化が計画の想定を上回っていることを踏まえて来年度中に改定計画を策定するとのことでした。

この「少子化が計画の想定を上回っている」との指摘は、第 1 回監査請求の際に、私が指摘していたことです。市教委は、今になってようやく事の重大性に気が付いたようですが、これから「在り方検討委員会」にて「学校の適正な配置や規模を議論する」のであれば、なぜ、はずれた想定のもとで計画された尾道みなと小学校及び尾道みなと中学校の校舎新築は見直さないのでしょうか。せっかく検討委員会を設置したのだし、巨額の投資を行うのだから、少子化の現実に応じた新しい小中学校再編計画が出来上がってから、こうした学校の建築は始めるべきです。

昨今企業の社外役員や監査役の役割が注目されています。企業活動が社会的ニーズにあっているのか、経営陣が間違った方向の選択肢を選んでいないなど、役割は重要です。監査委員は同様に、市の行政行為が社会的ニーズにあっているのかどうか、市や市教委が間違った方向の選択肢をえらんでいないかどうか、市とは独立して判断する権限を与えられています。

単に予算が執行されているかどうかを判断するのではなく、そのもの自体が市民にとって有益かどうかを判断する必要があるのではないのでしょうか？数字があっているかどうかだけで行政施策を追認するようでは、監査委員会の在り方自体が問われます。

監査委員の方は経営者の方、税務と監査の専門家の方、市議員で構成されています。

まず、岡田先生…先に申したように、多くの市民は怒っています。我々の活動に協力したいけど、名前が記載されると市との関係に支障をきたすかもしれないので名前を書けない、と言われた方が大勢います。先生のご出身の高須地区からもこうした圧力のなかでさえ多くの委任状が集まりました。彼らは高須小学校で児童が増えた時はプレハブ対応で、児童数の減少が確定しているみなと小学校にこのようなお金を使うのか？そんな金があるなら、高須校舎の改修や教育の充実に使って欲しいと言っています。ベテラン市議の岡田先生には釈迦に説法ですが、市の経常収支比率は98%、

つまり、市の収入の2%しか自由裁量で使える税金はないわけです。これだけ巨額の建築費を借金主体で建築すると、高須地区はおろか尾道全域の教育関連予算やその他の予算に制限がかかります。その結果ますます人口流失を招きませんか？

高橋先生…公認会計士資格を持ち税務と監査のプロで、数多くのクライアントを抱え、企業経営等のアドバイスをされておられます。

もし財政状況が良好ではないクライアント企業が、縮小する事が現実視される市場に身の丈に余る借金をしてそこに資金を投入する事に対して、何のアドバイスや忠告もせず無条件で容認されますでしょうか？企業と行政とは違いますが、よくよく吟味して最小の投資で最大の効果を狙う事は企業活動も行政も同じだと思います。

この度の建築計画は無謀とも思われる事案です。税務と監査のプロとしてのプライドを持ってご判断をしてください。

最後に今岡委員長…社歴が150年近くの老舗今岡製菓の会長で、商工会議所の副会頭の役職もされている会社経営の大先輩に、大変失礼ながら一言申し上げます。

委員長の企業の社長が大きな借金をして、これから縮小が現実視される市場に限られた経営資源の投入を計画しているとして、会長としてそれを簡単に容認しますか？

会社組織の中で、もっとお金を掛けなければならない部門はありませんか？会社の持

続的成長の為には投資は欠かせません。でも間違った投資をすれば、競合他社に負けて、社員の不満は起きて他社に転職して会社は衰退します。その事は会長として十分に知っておられるはずです。会社経営と市の行政運営も同じです。間違ったお金の使い方をしているのは、市民サービスの低下を確実に招き、住民の他市への転出は続き市の衰退を招きます。

最後にこの度の監査請求と去年の監査請求では大きな違いがあります。

それは宮本教育長の発言で議会が正しい判断が出来なかったという点です。

確かに二元代表制である議会で予算は可決されましたが、教育長の誤った答弁のもとで判断されたものなのです。

監査委員会は当然教育委員会にヒアリングをされ、市教委の過去のデータの検証もされると思います。その際に市教委がかねて、既存校舎の耐震診断を行い、その結果をもとに耐震工事の設計まで完了し、既存校舎の改修で十分使用可能なことを承知していたことが判明します。しかし、突然新築にかじを切り、教育長はそれまでの作業が無かったかのような答弁を行いました。私たちが示した、老朽化・耐震性の不足を補うための工事については、積算根拠（我々は市教委のデータを基に計算しています）を示して改修予算を示したにもかかわらず、私たちの試算を老朽化を前提にしていな
い…と根拠もなく切り捨てた答弁を行った事について、双方の資料を確認していただ

くよう強く求めます。

こうした工事の積算は、市の担当者であろうと、外部であろうと、誰が行っても同じ結果になるものだからです。

市教委のデータと我々のデータを精査すれば、新築と耐震改修の比較検討が出来るはずで、市教委の杜撰で誤った発言によって耐震改修の選択肢がなくなり、議会が正しい判断を下す材料を失い、本件が議決された案件だとわかるはずです。

そういう状況下の議決であるにもかかわらず、万が一にも、行政の裁量権という監査委員会としての職務と権限を放棄した結論を出された場合には、わたしたちは法廷に場を移して主張します。

添付書類は去年の監査結果報告書の最終ページです。

監査委員会は「意見」として、決定プロセスなど十分検討をする事などを市教委に促しています。しかし、市教委は監査委員会のご意見を無視し、前述のように事実と異なった答弁を行い、議会に正しい情報を与えず新築建設の議決を得ました。

我々は監査委員会が単に意見を述べるのではなく、本件について、客観的にかつ科学的に我々のデータと市教委のデータなどの検証を十分に行い、公正明大な判断をしてこの度は明確な結論を出して頂きたいと思っております。

この新築計画は将来の市民に莫大な借金を背負わせて、市の衰退を招くものです。

今投入されようとする建築費は市民つまり私たちの税金、私たちの借金です。

監査委員のみなさんにとってもご自身の税金であり、ご自身の借金です。

それ故に監査委員会は行政の単なる追認機関であってはならないと思います。

我々は監査委員会が意見というのではなく、後世に悔いを残さないためにも、

正しいご判断を下される事を重ねて切にお願いして、本日の陳述を終えます。

以上

おらず、不適法である。

したがって、本件新校舎建設工事に係る契約の締結及び同契約により生じる公金の支出の差止請求については却下とし、その余の本件請求には理由がないものと認められることから、本件請求は棄却すべきものと判断する。

第5 意見

本件請求についての判断は前記のとおりであるが、統合に伴う新校舎建設に至るまでの一連の経緯において、子どもたちの安全な教育環境を早急に確保することを目的としながら、結果的に長い年月を要したことについては、市教委として、教育行政の進め方や計画性に不十分な点や丁寧さを欠く部分がなかったのか、改めて検証することを求めたい。

今回の件を踏まえ、今後は、より一層丁寧かつ慎重な取組を心掛けていくことを強く望むものである。

新校舎建設に当たっては、開校準備委員会等での意見を尊重しつつ、中長期的な活用方法についても十分検討の上、適正な施設規模となるよう進めていただきたい。

将来の尾道市を担う子どもたちが、未来を描き夢と希望を持てる教育の実現に向けて、全力で取組を進められ、地域から愛され誇りに思える学校となることを期待している。